

事業所名 プロッサムジュニア 高島教室

#### 支援プログラム（放課後等ディサービス）

作成日

2025年 2月 1日

法人（事業所）理念	えがおで笑かせる、ひとりひとりの「できるようろこび」		
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。）</li> <li>・他者のつながりを重視し、コミュニケーション能力をルールを吸収する力を充実させます。</li> <li>・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情報を吸収します。</li> <li>・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。</li> </ul>		
営業時間	9時 0分から 18時 0分まで	送迎実施の有無	あり なし
	ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容
健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得</p>	<p>(a) 健康状態の把握 健康など心と体を育む健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健診結果の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程、特性等に配慮し、小さなサインから心身の変化に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康状態の維持・改善のための基本的な生活リズムをつけるよう支援する。また、健常な生活の基本となる食を豊富な食育に努めるとともに、差し込む食事ができるよう、口唇の機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持・自立等に関する支援を行う。さらに、病院の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリーションの実践 日常生活動作の訓練、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身体の機能を活かし、食事・衣類の選択・掃除等の生活に必要な基礎的能力を獲得できるよう支援する。 (e) 健康行動の実践・改善 身のまわりの環境を整えることによる改善を含む。生活の中から、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>	<p>年間的に健康管理を行い、健診結果を確認します。結果のうちは、健診結果や医師の意見を理解し、言葉やイラストを用ひて身の回りの医療情報を伝えてもらうよう致します。良い感じがある時は、気持ちの良いドアや言葉の丁寧な出し方、自分で表現できよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日常に備え、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、歩行や姿勢等の改善を目的とした活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音と動きをかけたりする活動を通して、楽しい活動の中で楽しくてやりたい活動への改善をします。）</p> <p>[例] ・荷物、ランデセル、水筒等は所定の場所に置く ・時間内に身震度を減らす</p>
運動・感覚	<p>(a) 筋力と柔軟性・動作の向上 (b) 運動・動作の神経的・筋肉的手段の実用 (c) 保有する感覚の統合的な活用</p>	<p>(a) 筋力と柔軟性・動作の神経的・筋肉的手段の実用 日本式の筋力測定器を用いた筋力測定や筋肉自体の強さ、下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘離や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 運動・動作の神経的・筋肉的手段の手順の活用 姿勢の保証や各筋肉の運動、動作が困難な場合、姿勢を維持するなど、様々な補用器具の補助手段を活用してこなしができるよう支援する。 (c) 保有する感覚の統合的な活用 自己からの身体移動や歩行、歩行や走りに対する運動感など、日常生活に必要な移動能動性の向上のための支援を行う。 (d) 保有する感覚の統合的な活用 感覚の統合によって、感覚が十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び代替手段の活用 保有する感覚を活用していくことで記録や指導板等の各種の補助器具を活用できるよう支援する。 (f) 行動障害者の手筋及び対応 感覚や認知の特徴（感覚の過敏や弱敏感）、感覚の偏りに対する巡回療育等の支援を行う。</p>	<p>体幹などをして、日常生活重心で必要な筋肉となる筋勢保持や手筋、下肢の運動能力の向上を目指します。サークルなどの異なる運動形式で運動を行なうことで、筋力・持久力・柔軟性などの運動能動性を高めます。注意して取り組めるような方法を確実に実現するため、安全で取り組めるよう支援を行ないます。 色々な遊びなどをプロトコルや絵本などの教材を用いて、説明的に理解する力の向上を実現します。 複数の感覚を組み合わせた活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音と動きをかけたりする活動を通して、楽しい活動の中で楽しくてやりたい活動への改善をします。</p> <p>[例] ・パンチボールやバーモット等で身体を動かす ・集団療育では制作された運動課題、しつけやボール投げを通じた大運動に取り組んでいます</p> <p>[参考] ・日常生活でも取り組む運動課題 ・運動課題では制作された運動課題、しつけやボール投げを通じた大運動に取り組んでいます</p>
本人支援	<p>(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 球の操作と表現 (c) 対象や外環境との適切な認知と適切な行動の習得</p>	<p>(a) 感覚や認知の活用 視覚、触覚、聴覚等を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知から行動への認知過程の発達 認知過程を理解するためのツールやマニュアル等を選択し、行動につなげていく「一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりなどの概念の形成 物の機能・属性、形・色、音を変化させる機器・空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。 (d) 認知の発達への対応 問題解決を踏まえ、自己に適応するための支援を行なう。 (e) 認知の発達への対応 問題解決を踏まえ、自己に適応するための支援を行なう。 (f) 行動障害者の手筋及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</p>	<p>高いやり物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間帯を計るゲームを使い、楽しげながら空間・時間・数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教員を用いて税理的に理解しやすい支援を行なっています。</p> <p>[例] ・個別に対応することで、相手の気持ちや自分の思いを伝えるスキルを練習し、感情のコントロール方法を学んでいく ・認知や行動の手がかりと量、大・小、色などから選べる遊びを用意する</p>
	<p>(a) 高齢の発達と児童 (b) 音楽の表現と表現 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と選用</p>	<p>(a) 音楽の形態と表現 音楽の多様な形態、五感の癒しを結びつける等により、体系的な音楽の習得、自発的・自発的発声を支援を行う。 (b) 受け言葉と表現言葉の支援 話し言葉や各言の文字・符号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えるなど、高齢者を受容し、表現する支援を行なう。 (c) 感覚運動的及び社会的・精神的支援 発達途上のお子さまほど、障害の特徴に応じた読み書き能力の向上のための支援を行なう。 (d) 一人道から協同歩みへの支援 高齢の方々が歩むときに、歩幅や歩幅の調整等の歩幅・歩幅の伝達ができるよう支援する。 (e) 読書書き能力の向上のための支援 発達途上のお子さまほど、障害の特徴に応じた読み書き能力の向上のための支援を行なう。 (f) コミュニケーション・機器の活用 各機器の文字・符号、解説カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と癒しの伝達が円滑にできるよう支援する。</p>	<p>お子さまの歩みや発達段階に合わせて、段階的で目標を達成しながら、やりやりと達成していく人の心地に沿げます。表情やジェスチャーなども含めてコミュニケーションを支援します。またお子さまが自分や他の人の感情を感じ、適応できるよう、職員がモデルをします。 「読みや書く」などの表現力や、コミュニケーションの力を育むために、お子さまが自分から始められる活動を進めます。読みや書く、ゲーム等の面では、職員が開けながら同じに興味を持たせ、人の交流を楽しむようサポートします。ここに遊びや共同遊びを通じて、会話を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しないなら行動やことのモデルを示します。</p> <p>[例] ・宿泊療育を通して様々な交流やコミュニケーションの方法を園庭と一緒に考え方を進展させ、実生活で実践していく。 ・集団療育を通して他児に開けめぐらしさを知り、お子さんや高齢者といい相手に伝わる話し方を磨いていく。</p>
人間関係・社会性	<p>(a) 他の人の開けめぐらし（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調節 (c) 仲間づくりや集団への参加</p>	<p>(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人の間接を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 他人との関係性の理解 他人との関係性を理解し、他人との関係性を理解することにより、社会性に対する理解をより深めます。 (c) 感覚運動的及び社会的・精神的支援 発達途上のお子さまほど、障害の特徴に応じた読み書き能力の向上のための支援を行なう。 (d) 一人道から協同歩みへの支援 高齢の方々が歩むときに、歩幅や歩幅の調整等の歩幅・歩幅の伝達ができるよう支援する。 (e) 関係性の向上のための支援 高齢の方々が歩むときに、歩幅や歩幅の調整等の歩幅・歩幅の伝達ができるよう支援する。 (f) 自己の理解とコントロールのための支援 大人が介護してあげることなど、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 (g) 集団に参加するための手筋やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。</p>	<p>事前に視覚的な手掛かりを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体制やゲームなどを通じて、会話の向上を促します。またお子さまが自分が他の人の感情を感じ、適応できるよう、職員がモデルをします。 「読みや書く」などの表現力や、コミュニケーションの力を育むために、お子さまが自分から始められる活動を進めます。読みや書く、ゲーム等の面では、職員が開けながら同じに興味を持たせ、人の交流を楽しむようサポートします。ここに遊びや共同遊びを通じて、会話を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しないなら行動やことのモデルを示します。</p> <p>[例] ・タブレットを使用して各自の時間、終りの時間、終りの時間等の時間の意識を持てるよう督促 ・運動療育や感覚運動などの指示を通じて先を完璧な行動を行ない、相手の気持ちを尊重した言動を取と共にその場面に応じた行動が来るよう促し、情動化する。</p>
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を述加時（お送り状）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。</li> <li>・6ヶ月ごとに定期評価、ミラーリングは別途評議の機会を設け、保護者にて行なっています。</li> <li>・個別療育の結果を報告書を作り、保護者に対して支援のポイントや意見を共有しています。</li> </ul>	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との面接について情報共有、支援方針を計画します。</li> <li>・事業所への接続や他事業所や他施設との連携に関して相談します。</li> <li>・学校(園)へ向けての情報発信や連絡等を行ないます。</li> <li>・学校(園)へ向けての情報発信や連絡等を行ないます。</li> </ul>
地域支援・地域連携	<p>・開催箇所で評価分担し、情報共有を行ないます。</p> <p>・情報収集や情報発信を行ないます。</p> <p>・各施設の運営情報を基づき、具体的な場所での取り扱いや、困りごとに応じての提案やポイントを共有します。</p> <p>・セラフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担当する施設の開催する会議に参画し、情報共有を行ないます。</p>	職員の質の向上	<p>・プログラマブル本科にて下記研修実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職員によるスキルアップ研修</li> <li>・虐待防止研修</li> <li>・特別支援教育実務研修</li> <li>・感覚対応研修</li> <li>・その他</li> </ul> <p>・児童発育・ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施</p>
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の行事</li> <li>・防災施設や公園への外出活動</li> </ul>		